七月十八日。足利尊氏、山城勸修寺の祈禱卷數を贈れるを謝し、同寺領江沼郡郡家莊に守護の兵粮を課するを停止すべきを告ぐ。

【勸修寺文書】　山城　四六三

天下靜謐祈禱目錄謹給候訖。殊畏存候。且當寺領賀州郡家庄事、守護人宛催兵粮候云々。寺役嚴重之上、可停止之由可加下知候。以此旨可令申入勸修寺宮給候。恐々謹言。

文和四年七月十八日　　尊　氏　在判

大納言法印御房

七月。鹿島郡能登島東方地頭天野遠政代堀籠宗重、能登に於ける軍忠を具申して吉見氏賴の證判を求む。

【天野文書】　四六四

天野安藝守遠政代堀籠六郎左衞門尉宗重申軍忠事

右凶徒長伊勢守胤連之一族家人等、栖籠當國能州能登嶋西方金頸城之間、今年文和四三月十七日、押寄彼城取向陣、毎日致合戰之忠、同六月十四日夜追落彼城之刻、甥左衞門三郎遠行被疵右肱射疵畢。然早賜御證判、爲備後證、恐々言上如件。

文和四年七月　日

承（吉見氏賴）了　在判

十二月三日。足利義詮、能登守護吉見氏賴をして北國の敵徒退治を謀らしむ。

【吉見文書】　四六五

北國凶徒退治事、可廻籌策之狀如件。

文和四年十二月三日　　（足利義詮）在　判

吉見參河守（氏賴）殿

十二月廿七日。幕府、石川郡祇陀寺の卷數を送れるに答ふ。

【祇陀寺文書】　四六六

歲末御祈禱卷數一合、入見參候了。仍執達如件。

文和四年十二月廿七日　（書入）道磬はうぐわん入道どの　沙　彌　在判

祇陀寺長老

御返事

正平十一年　丙申
文和五年　京都　三月廿八日改元
延文元年　紀元二〇一六

二月五日。友宗、秦左近に珠洲郡馬繫村恒利名の林を讓與す。

【本光寺文書】　珠洲郡　四六七

袖　判

避渡恒利名內林之事

合

右件林者、依御免元（マヽ）はやし申候處、秦左近尉恒利名之內と余ニ歎申候之間、依有其謂渡申處實也。但在所者、金山四郎屋敷之上在之。境者、東者池、右田之道之通お堺於定也。南者長池左近水尻於定也。如此境立避渡上者、於末代更不可有他妨者也。仍爲代明鏡宛狀如件。

文和五年二月五日　　友　宗　在判

（恒利名が珠洲郡馬繫村のうちなることは貞和五年四月十一日の條等に見えたり。）

四月十日。梶井門跡尊胤法親王、山城祇園社執行顯詮に加賀郡萱野保を管領せしめ給ふ。

【祇園社記】　四六八

加賀國萱野保事、晴喜法印讓狀無子細之上者、任靜（晴カ）賀法眼讓附、爲御師職致管領、可被抽御祈禱丹誠之由、梶井二品親王（尊胤）令旨所候也。仍執達如件。

延文元年四月十日　　權大僧都　在判

助法印御房（顯詮）

（康永三年十月十日及び貞和三年七月二日の條參照。）

六月五日。大桑玄猷、石川郡白山宮に上林鄕內の田地屋敷を寄進す。

【白山比咩神社文書】　石川郡　四六九

寄進　白山大神宮仁王講田

加賀國上林鄕內秋永名田屋敷□（事）